

青森県
秋季高校野球

秋季青森県高校野球選手権第3日は21日、2球場で準々決勝4試合が行われた。工大一は左腕金淵光希が青森北から15三振を奪う庄巻の投球で5-0で快勝。八学野西は打線が振るわず、青森商に7回コールドで零敗した。弘前東は東義に延長10回サヨナラ勝ち。青森山田は弘前を接戦の末に下した。24日は青森市ダイシンベースボールスタジアムで準決勝の青森商-弘前東（10・00）、青森山田-工大一（12・30）が行われ、勝者が10月10～16日に行われる東北大会（山形市ほか）の出場権を手にする。（取材班）



野西打線沈黙、零敗

〇…十和田地区で唯一勝ちを残っていた八学野西は、4強を前に無念のコールド負け。自慢の強力打線は鳴りを潜め、主砲田頭優輝は「チーム全体が先（準決勝以降）を見

先発樋口、3巡目暗転

過ぎていて、得意な打ち勝つ野球ができなかった」と、肩を落とした。

先発の樋口禪は、初回を三者凡退に抑えるなど上々の滑り出したが、相手打線が3巡目の打席を迎えた五回につかまった。直球を狙われて走者がたまる、暴投を嫌って決め球の落ちる球を有効に使えず、長短5安打で6失点した。

樋口は「相手の流れを断ち切れず、五回で試合が決まってしまった」と唇をかんだ。

打線も厳しいコースの球を見極められず、散発4安打で無得点。走者を出しても、球威のある相手先発の前に淡泊な打撃に終始し、樋口を援護できなかった。田頭は「来春こそ4番らしいスイングでチームを勝利に導きたい」と雪辱を誓った。

【青森商-八学野西】4回青森商無死一、三塁、八学野西は失策でピンチを招き、樋口禪（右）の元に幸田道生が駆け寄る。青森県営